



開会式・閉会式について

2017年12月20日

東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト最終報告

第一章 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の位置づけ

歴史的意義

東京1964大会は戦後復興の象徴や経済成長や科学技術の発展の契機となり、経済的・物量的に豊かになり、また、障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促すきっかけとなった。東京2020大会では、50年後、100年後に振り返った際に、心が豊かな幸せな社会、持続可能な社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わる契機となることが求められている。

大会全体の歴史的・社会的意義

社会的意義

世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの意義に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などのナショナリズムを超え、障がいの有無にかかわらず、若者を含め皆の参加意識を高め、一体感を醸成することで、世界平和を祈り貢献し続けていくことを目指す。また、アジアの発展と繁栄のために、世界にメッセージを発信していく。

大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

第二章 開会式・閉会式の全体コンセプト

【平和】和を尊ぶ考え方が、分断や対立を超えた世界につながることを示す。

- 世界中の国・地域のアスリートと観客が一堂に集い、分断や対立を超える機会とする。
- 各々の価値観を押し付けることなく、互いに尊重し合うことで調和を図り、積極的に平和をつくり上げていく姿勢を示す。

【共生】多様な違いを認め合い、支え合い、活かし合うことで、新しい価値を生み出す共生社会を目指すことを示す。

- 一人ひとりが異なる存在であり、お互いを認め合い、支え合う寛容さを持つことが、大切であることを示す。
- 異なる存在が交流し、互いに活かし合うことで、新たな価値が生まれ、よりよい社会につなげていく。

【復興】自然災害を乗り越え、諦めることなく次代を創ろうとする姿を示し、世界の人々への勇気へとつなげる。

- 人間も自然の一部であるという考えに立ち、自然に対する畏敬の念を大切にする。
- 繰り返し訪れる自然災害から復興していく過程において、よりよい社会を創ろうとする人間の強さを示し、世界中の被災者の方々へ勇気を伝播する。

【未来】持続可能で、人間性豊かな、新しい時代のスタートラインとする。

- これから100年の視野を持って、世界中の若者に未来への夢と希望を抱かせるまたとない機会である。
- 地球という限られた環境の中で、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく時代のはじまりを示す。

【日本・東京】歴史の中で培われ、今も生きる日本・東京の美しい感性を大切にする。

- 日本・東京が過去から現代に引き継いできた、韌かさや美しさを大切にして表現に活かす。
- 日本国内からの視点だけではなく、海外からの視点も取り入れ、世界の人々が日本を楽しむことができるようにする。

【アスリート】スポーツの祭典として、主役のアスリートが安心して参加できる式典を目指す。

- 式典の主役はアスリート。開会式は世界中のアスリートを歓迎、鼓舞し、閉会式は競技を終えたアスリートの健闘を称え、国を超えた交流の輪が広がる場とする。
- アスリートが安心して開会式・閉会式に参加できるよう、空間的、時間的にもコンパクトな式典運営を心がける。

【参画】多くの人々が自分も式典に関わっていると感じられるような、みんなで作る式典を目指す。

- 多くの人々が、式典づくりやパフォーマンスに参加できる機会をつくることで、多くの交流を生み出す。
- スタジアム内だけで完結させず、テクノロジーなどを活用して、より多くの人に関わることができる仕組みをつくる。

【ワクワク感・ドキドキ感】熱気や興奮が感じられ、一生に一度の体験となるような機会とする。

- メッセージを大切にしながら、観客や視聴者に興奮や驚きを提供する。
- 日本や世界の子どもたちをはじめ、人々の記憶に残る開会式・閉会式を目指す。

第三章 4式典の位置付け

4つの式典を一連の四部作と捉え、起承転結となるよう、メリハリを付けて構成する。

（起）オリンピック開会式

- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の扉とする。
- ・国内外からの注目度が最も高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・大会の歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトも活かしていく。

（転）パラリンピック開会式

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市である。
- ・互いに認め合い、助け合う共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

（承）オリンピック閉会式

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、会場を一体化する。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。
- ・次の世代に受け継いでいくべき価値を示す。

（結）パラリンピック閉会式

- ・東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレである。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。



東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト 最終報告

平成29年12月20日
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

2020年、東京で2回目のオリンピック・パラリンピックが開催される。大会の始まりと終わりに位置する開会式・閉会式では、オリンピック・パラリンピックの歴史的意義や社会的意義に鑑み、東京、日本そして世界に対して、ポジティブなメッセージを発信していきたい。

今回、

「開会式・閉会式でどのようなメッセージを発信していくべきか」

「開会式・閉会式をどのようにつくり上げていくべきか」

「オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式の4つの式典の位置付け」

について、国内外の多くの専門家の方々や国民の皆様から、総計1,800件を上回る貴重な御意見を頂戴した。

頂いた御意見をもとに、御手洗富士夫座長のもと、

「東京2020有識者懇談会」で議論を重ね、基本コンセプトを策定した。

【東京2020有識者懇談会】

御手洗 富士夫（座長）	東京2020組織委員会名誉会長/キヤノン株式会社代表取締役会長CEO
青柳 正規	東京2020文化・教育委員会委員長/東京大学名誉教授
伊藤 穰一	MITメディアラボ所長/マサチューセッツ工科大学教授
小倉 和夫	公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター理事長
大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長
澤 和樹	東京藝術大学学長/ヴァイオリニスト
曾野 綾子	作家
田中 優子	法政大学総長/江戸文化研究者
デービッド・アトキンソン	株式会社小西美術工藝社代表取締役社長
御厨 貴	東京大学名誉教授/政治学者
三宅 義信	ウエイトリフティング1964東京大会/1968メキシコシティー大会金メダリスト
室伏 きみ子	お茶の水女子大学長

東京2020大会の歴史的意義

- ▷ 前回の東京1964オリンピックは、戦後日本の復興の象徴として、またその後の日本の経済成長や科学技術の発展の出発点として、多くの人々に記憶されている。
また東京1964パラリンピックは、日本の障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促す契機となった大会である。
- ▷ 経済的に成熟し、これから世界が抱えるであろう多くの課題にいち早く直面している日本・東京は、率先して世界に対して解決策を提示し、新たな未来を示す必要がある。
- ▷ 50年後、100年後に東京2020大会を振り返った時に、精神的な豊かさを求める社会、持続可能な社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わるきっかけになったと国内外で評価される大会にしたい。

東京2020大会の社会的意義

- ▷ 世界は今、経済や文化、政治などあらゆる面で分断が進んでいる。オリンピック・パラリンピックの原点に立ち返り、東京2020大会では、国籍や民族などの違いを超え、一体感を醸成することで、世界平和の実現ために、貢献し続けていくことを目指している。
また、東京2020大会は、日本だけでなくアジアの視点を大切に、世界に向けてメッセージを発信していく。
- ▷ 日本・東京が、ハード・ソフトの両面において、国籍、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、お互いの間にある垣根が低くなっていくような、また人々の間で、特に次世代を担う若者の間で、社会的な参画意識が高まっていくような大会にしていく。

東京2020大会を、東京1964大会に匹敵する歴史的な節目とするために、またオリンピックとパラリンピックそれぞれ固有の大会の意義を示しつつ、一貫性を保つために、次のような大会ビジョンを掲げている。

東京2020大会ビジョン

スポーツには世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

【参考】オリンピック・パラリンピックの精神

●オリンピック

クーベルタンが唱えたオリンピズム＝オリンピックの精神とは「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」としています。

また、IOCは、近年、オリンピックの価値を卓越性（Excellence）、友愛（Friendship）、尊重（Respect）という3つのキーワードで表現し、世界の若い人々がこれを頭で理解するだけでなく、身をもって行動することを求めています。（JOC HPより参照）

●パラリンピック

パラリンピックは、様々な障がいのあるアスリートが公平に能力を発揮し活躍できる世界最高峰の競技大会です。できないことに着目するのではなく、「どうしたらできるか」の視点で創意工夫し、想像を超える競技パフォーマンスを発揮するパラリンピアンは、人々の心を揺さぶり障がいに対する認識を変え、共生社会の実現へと誘います。主催者である国際パラリンピック委員会は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」という四つの価値を重視しています。

基本コンセプト

【平和】和を尊ぶ考え方が、分断や対立を超えた世界につながることを示す。

○世界中の国・地域のアスリートと観客が一堂に集い、分断や対立を超える機会とする。

○各々の価値観を押し付けることなく、互いに尊重し合うことで調和を図り、積極的に平和をつくり上げていく姿勢を示す。

古代オリンピックの時代から、オリンピックが開催される時には、エケケイリアと呼ばれる聖なる休戦期間が設けられ、敵味方関係なく、安全に地中海戦禍を移動できる措置が取られていた。また、平和とは、近代オリンピックの父と呼ばれているクーベルタンのオリンピズムにも唱えられており、現在のオリンピック・パラリンピック競技大会にもつながる崇高で偉大なテーマである。

日本には古来、「和を以て貴しと為す」という言葉がある。心を穏やかに持ち、相手の気持ちを考え、人と人とのつながりを大切にしていけることが、もっとも大切である、という意味である。

現在、世界は分断や対立が進み、これまで目指していたグローバル社会から一転して、自国中心主義に向かう傾向にある。

これらの課題を直視し、東京2020大会開会式・閉会式では、分断や対立を超えて、改めて世界中で平和について考え、見つめ直すきっかけにしたい。日本が大切にしている考え方である「和」、つまり、各々の価値観を押し付けることなく、互いの価値観を尊重し合うことによって、人と人との調和をはかることが、積極的に平和をつくりあげること（Peace Building）につながることを示していきたい。

○寄せられた御意見【平和】

- ・世界の一員として、世界平和を祈り、貢献し続けてきた日本の姿をメッセージとして示す。
- ・地球が存続していくために、大国小国関係なく、世界の国がつながり、それぞれが役割を持ち協働し一つになることを意識する。
- ・極東のガラパゴスのような、平和な立ち位置だからこそ言えることを言う。
- ・平和はみんなの手で作り上げられるものである。
- ・平和の誇示ではなく、日本が平和を祈り、平和に思いを馳せている心情を表現できればよい。
- ・スポーツを通じて、互いの心を通じ合わせ、「みんな こんなに楽しく、仲良くできるのか」という印象を与える。
- ・スポーツは人種などの違いは関係なく、みんなで楽しめる。お互い尊重し合うスポーツマンシップやフェアプレイの精神を通じて、平和な未来を感じられるようにする。
- ・日本の武道の「対立しない、戦わない」の精神をもとに和を表現する。
- ・戦争という武力解決から対話という平和的解決へ、ということを訴える。
- ・人種や民族のあるがままの尊厳を肯定して、互いに心を開こうというメッセージを伝える。
- ・戦後から現在まで、どのように平和を保持してきたのかを改めて振り返る。
- ・唯一の被爆国として平和や非核の大切さを発信する。
- ・前提として平和の祭典であることを忘れないようにする。
- ・現在、起きている事のありのままを、世界中に理解してもらえるようにする。
- ・世界で起きている問題を共有し、分断を越えた気分になるのではなく、本当に分断を越えることを考える。
- ・自国中心主義に向かい、分断が進む世界に、国境の概念が薄くなり、解けてしまうような平和の象徴となる式典になればよい。
- ・政治、文化、宗教を超えた世界中の人と人のつながりを伝えたい。
- ・今起きていることを数字で考えたり、法律で考えると人の分断を生む。そういうことを忘れて一体になれる空間を作ることが大事である。
- ・参加者が協力して、戦時の鎮魂から平和な未来創造を祈る機会があるとよい。
- ・インパクトが得意とする目先の驚きや判り易さだけでなく、伝えるべきことを人の深いところに浸透定着させることができるとよい。
- ・メディアを介して、全世界が黙とうして、今起きている何かに思いをはせる機会としたい。
- ・物事を線引きしないアジア的な自由さが解決の糸口になると思う。
- ・勝利至上主義ではなく、アジア的な和や共生を醸し出す。
- ・倭の国、和洋の国、平和の国、和食、和式、融和など、日本を表現する上で、和が重要である。
- ・国によって歴史認識が違うということに留意する。
- ・競技を終えた後の閉会式は、より平和を感じられるものがよい。

【共生】多様な違いを認め合い、支え合い、活かし合うことで、新しい価値を生み出す共生社会を目指すことを示す。

- 一人ひとりが異なる存在であり、お互いを認め合い、支え合う寛容さを持つことが、大切であることを示す。
- 異なる存在が交流し、互いに活かし合うことで、新たな価値が生まれ、よりよい社会につなげていく。

オリンピックは、スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献する精神に基づいて実施する。

パラリンピックは、想像を超える競技パフォーマンスを発揮するパラリンピアン
の姿を通じ、人々の心を揺さぶり、障がいに対する認識を変え、共生社会の実現へと誘う場である。

東京2020大会は、東京で2回目のパラリンピック競技大会が開催される大会でもあり、東京2020大会ビジョンにも「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」と規定しているように、共生社会を実現していく貴重な機会として捉えている。

日本において、人種や宗教、年齢、性別、障がいの有無などに関わらず全ての人
が受け入れられ活躍できる社会、すなわち、多様な価値観を尊重し活かし合う共生
社会の実現に関しては、まだ多くの課題がある。

東京2020大会開会式・閉会式では、多様な存在がお互いに認め合い、支え合うこ
と、さらに、一人ひとり異なる人々が集まり、力を出し合うことで、今までにな
かった新しい発想が生まれ、新たな価値を生み出すエネルギーが実感できる機会と
したい。

○寄せられた御意見【共生】

- ・パラリンピックの式典や制作運営を通じて、大会後も障がい者のスポーツ・文化活動を支援し続ける社会を作る。
- ・思いやりの心を軽視し、合理性・効率性を求めすぎると、差別や偏重につながることもある。
- ・柔と剛、量と質、などの対となるコンセプトを、オリンピックとパラリンピックに対してそれぞれ与え、多様さを醸成するのも良いと思う。
- ・生活の中の常識を、あえて非常識に表現することで、多様な視点を表現できるだろう。
- ・従来しなかったアプローチを行うことで、できなかったことを実現したい。
- ・障がい者だからこそできる芸術表現の意義が健常者のそれと混じり合い、新たな可能性を切り開く。
- ・障がい者用のギア（スポーツ用具や義肢・車椅子）に娯楽性やファッション性を加え、人々が憧れるスタイルを見せる。
- ・パラリンピアンをカッコよく、クールに、感覚として共感でき、憧れられる存在にみせる。
- ・聞こえる色、見える音などの障がい者ならではの感覚を伝えることができればよい。
- ・疑似的な体験によって、障がいのある方たちの新たな可能性への挑戦に対して、深い理解を広く得る。
- ・何がマイノリティであるかを定義する際は配慮する必要がある。
- ・競争社会から共創社会へシフトするきっかけにする。
- ・障がい者を遠くに感じている意識を変え、特別な扱いをせず、一緒に大会を楽しみ、運営し、盛り上げていくことで、全ての人が笑顔になれる未来を目指す。
- ・障がい者も運営やボランティアスタッフとして活躍できる環境をつくる。
- ・障がい、世代、性別関係なく、みんなでスポーツを一緒に楽しむユニバーサルスポーツの広がりを見せたい。
- ・共生社会とは、健常者が障がい者を助けて共に生きる社会だけでなく、お互いを認め合い助け合うことで、それぞれが活躍できるように共に生かす社会である。
- ・障がいを持った方からヒントを得て、健常者が新たな発想を生み出す事もある。
- ・障がいのある方だから助けることと、小さな子ども、お年寄りが困っているから助けることは一緒である。
- ・得意なことと不得意なことを、お互いに補いながら生きていける社会を作っていければよい。
- ・人種や宗教、性別、年齢等の違いを超えて、互いにリスペクトすることで心のバリアフリーを実践し、真に成熟した共存共栄の社会を作ることが大切である。
- ・全ての人が幸せに生きることができるよう、平等と思いやりのある心を育むことが必要である。
- ・障がい単に個性や性格付けのひとつであると、ユーモアを持って伝えたい。また、そのようにできる関係になることが大切である。
- ・堅実ながらもユーモアを介して、全世界の人が納得することができるようにする。
- ・障がいという個性が能力を発揮することで活躍し、世界に貢献する姿を見せる。
- ・世界と日本の現状を把握し、多様性を表現する際には注意する必要がある。
- ・オリンピックとパラリンピックの距離を近づけられるような取り組みを行う。
- ・様々な国と対話ができる日本だからこそ発信できる共生社会のメッセージを伝えたい。

**【復興】 自然災害を乗り越え、諦めることなく次代を創ろうとする姿を示し、
世界の人々への勇気へとつなげる。**

○人間も自然の一部であるという考えに立ち、自然に対する畏敬の念を大切に
にする。

○繰り返し訪れる自然災害から復興していく過程において、よりよい社会を
創ろうとする人間の強さを示し、世界中の被災者の方々へ勇気を伝播する。

第二次世界大戦後、日本は敗戦国として、復興を始め、東京1964大会は戦後復興の象徴として、先進国の仲間入りをした大会であった。その中で、東京2020大会の開催意義に鑑みると、2011年の東日本大震災をはじめ、日本全国で発生した多くの自然災害からの復興を象徴する大会であるということが言えるだろう。さらに、世界中では、人災、天災による被害、悲劇は毎日のように起こっている。世界中の人々の状況も踏まえ、式典では被災している人々が前向きになれるようなメッセージを伝えていくことが大切である。

古来、日本は世界の中でも自然災害が繰り返し、繰り返し発生する国である。近年、地震、台風、水害、火山活動などの自然災害が頻繁に発生し、多くの被害を生み出している。日本人はその度に、みんなで手を取り合い、復興・防災・減災に関する技術力を向上させてきた。その一方で、従来の防災・減災では防ぎきれない自然災害の発生により、自然を前にした人間の無力さも感じてきた。

自然に対して畏敬の念を持ちつつ、自然災害に対して、諦めることなく立ち向かい、次の生活、街、社会を創ろうと挑戦し、乗り越えてきた人間の強さを表現したい。

復興のキーワードとしては、レジリエント*や、災害を契機に新しいものを創り上げるダイナミズムが挙げられる。このような精神を活かし、東京2020大会開会式・閉会式では、日本の被災した人々も共に、世界中で被災している人々へ勇気を伝え、希望を与えていきたい。

* レジリエント(Resilient)…一般的に困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力として使われている。

○寄せられた御意見【復興】

- ・人類は自然と共生し、自然から学び、自然に感謝しなければならない。
- ・自然と人間の一体性が重要なキーワードになるだろう。
- ・人間は自然の前では非力であるが、自然災害を克服し共存共栄していく様子を伝える。
- ・人間は自然に勝てないことを経験したことから生ずる、「自然に対する畏敬の念」を示す。
- ・日本の美しい自然に目を向け、今一度自然に対する考え方を振り返る必要がある。
- ・日本がこれまで乗り越えてきた災害と復興の歴史を紹介する。
- ・日本人は精神的にも経済的にも自ら底を蹴って復興するという強い精神力や不屈の力を持っている。
- ・幾度となく自然災害を乗り越える、特有の一体感や一座建立の姿勢を世界に見せることができればよい。
- ・自然災害を何度も受けた経験に基き、地球環境を守り、自然と共生していくことが人類の使命であることを明確に伝える。
- ・世界中で自然災害に見舞われた人々に大きな感動と勇気を与え、復興の後押しをする。
- ・被災地の子どもたちと一緒に体を動かし励ます。
- ・被災者に対する心遣いを忘れない。
- ・被災地の方の立場や気持ちが多様であることを忘れてはいけない。
- ・日本社会の特徴である安全、清潔、高度な合理性が、日本の地勢的特徴である天災とどの様に向き合い復興させてきたかを、楽しく伝える。
- ・大会全体が、東北や日本全体にとってハレの場であって欲しい。
- ・復興支援としてのスポーツ教室など、被災地とアスリートとの間で出来上がっている関係がある。
- ・スポーツを通じて、被災された方々に勇気を与えるなど、オリンピック・パラリンピックでは、スポーツが復興にどう貢献できるか考えることが大切である。
- ・被災地を扱う場合、トップダウンではなく、被災地からボトムアップの形で遂行されるべきである。
- ・復興のメッセージが、国内に向けての発信になりすぎないようにする。
- ・支援への感謝はもちろん、自然災害から復興を遂げた人々の助け合いの絆や、気持ちを一つにして乗り越えてきたその姿を世界に発信したい。
- ・復興を見せる際は、深刻で悲しくなりすぎないほうがよい。
- ・開会式・閉会式に被災地の子ども達を招待する企画を実現できるとよいと思う。

【未来】持続可能で、人間性豊かな、新しい時代のスタートラインとする。

○これから100年の視野を持って、世界中の若者に未来への夢と希望を抱かせるまたとない機会である。

○地球という限られた環境の中で、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく時代のはじまりを示す。

東京1964年大会は戦後復興の象徴であり、高度経済成長にもつながる、次の時代へのスタートラインであった。経済的に成熟し、物質的な豊かさを手に入れた現在、東京2020大会では、日本や世界の次代を担う若者や子どもたちに対して、100年後も豊かに暮らす事のできる明るい未来への始まりを強く感じさせるものとしたい。それだけでなく、若者や子どもたちにとって、東京2020大会が成長の場、挑戦の場となり、その後の活躍につなげてほしいと考える。

世界を見渡すと、テロや戦争などをはじめとした紛争、限られた地球資源に関する環境問題、少子高齢化など、様々な課題に直面している。未来を見据え、地球という有限の環境の下で、自然や人間社会がバランスをとり、共存共栄できる未来をつくっていくために、平和の頁で述べた日本の和が、これからの世界にとって重要な考え方となってくるのではないか。

「和」の精神が持続可能で人間性豊かな、新しい時代をつくっていくに違いない。互いの価値観を尊重し合い、共に協力して難題に立ち向かっていくことことが、地球・自然・人類・多様な生物が調和し、持続的に共存していく新しい世界をつくっていくということを表現し、東京2020大会開会式・閉会式を未来へのスタートラインとしたい。

○寄せられた御意見【未来】

- ・課題先進国として、同じ課題にこれから直面する人たちにソリューションを例示し、解決先進国に向かうきっかけにしたい。
- ・課題先進国から、社会の様々な課題に対してソーシャルアクションを起こし、解決に向かうことを披露する機会である。
- ・様々な課題に取り組もうというという姿勢をみんなで共有し、前向きになるきっかけになればよい。
- ・日本では他国に先んじて超高齢社会・人口減少社会を迎えるが、その成熟社会をポジティブに捉え、新しい生活の豊かさに気づく契機とし、課題の解決に向かう未来のみではなく、希望を抱く未来を示す。
- ・大量生産、大量消費の時代から抜け出すきっかけにする。
- ・世界レベルの資源やエネルギー、環境の問題に率先して取り組み、市民との協働によって、地球と人間が持続する姿を見せる。
- ・2020年はパリ協定の開始年でもあるため、改めて地球温暖化に焦点をおき、未来の低炭素社会の在り方等を示してほしい。
- ・高齢者がこれからも豊かに活躍できる社会を予感させ、超高齢社会の日本だからこそ、高齢者が活躍する姿など提示できるものがある。
- ・超高齢社会の到来に、これからの持続可能な社会や、成熟することで得られる前向きな面を取り扱う。
- ・子どもからお年寄りまで幅広い世代がスポーツに親しみ、高齢化が進む日本で健康長寿社会が実現している未来の姿を世界に発信したい。
- ・将来を担う子どもにもボランティアなどの役目を与え、未来へのレガシーとしたい。
- ・次の世代を担う若者や子どもの成長や活躍につなげ、若者に時代をバトンタッチし、君たちが主役だと自覚を持ってもらえる仕組みが必要である。
- ・次の時代を担うような若い才能に、プロデューサーやクリエイターにチャレンジできるチャンスを作り、2020年以降のグローバルな活躍の幕開けとしてほしい。
- ・開会式・閉会式の準備過程で、従来であれば出会うことのなかった多種多様な人材が出会い、次世代の交流へと引き継ぐ機会があるとよい。
- ・次の世代を生きる子どもの目線で考え、100年後も豊かで希望に満ちた生活を送ることができる未来像を示し、将来に希望と夢を与える。
- ・100年後、200年後というスパンで提案できるようなスケール感が欲しい。
- ・将来を担う次世代に、全てが調和し、共存していく未来を見せたい。
- ・開会式・閉会式を若者の才能を発掘し、新しいことに挑戦させ、成長する重要な経験の機会とする。
- ・全世界の子どもと一緒に楽しめる演出があると面白いと思う。
- ・若い世代の価値観や美意識に注目する。

(次ページへ続く)

- ・2020年に東京で開催した事実を、その後の観光資源として脈々と受け継いでいく。
- ・日本は費用をかけなくてもどう面白く見せるか、新たな可能性を示すことができるかが重要であり、その精神・考え方や方策・技術を未来へのレガシーとしたい。
- ・聴覚や視覚に障がいがある方にも開会式・閉会式の感動を伝えることができるようにし、大会のレガシーにする。
- ・大きな構想として、東京2020大会を通じて何かを作り上げ、将来へ継続していく必要があるだろう。
- ・2020年がゴールではなく、新たな時代へのスタートとなるようにする。
- ・アジア圏という意識を持って、日本がどのような役割を担えるかを考えるきっかけになればよい。
- ・日本だけでなく、アジアの国々も巻き込むことで、アジア全体が変わるきっかけにする。
- ・ユニバーサリズムとインターナショナリズムを美しい形で表現する。
- ・未来についてポジティブに議論できるきっかけにしたい。
- ・ドーピング問題が多く発生しているため、ドーピングフリーを訴え、スポーツの健全な未来を見せる。

【日本・東京】歴史の中で培われ、今も生きる日本・東京の美しい感性を大切にする。

- 日本・東京が過去から現代に引き継いできた、韌かさや美しさを大切に表現に活かす。
- 日本国内からの視点だけでなく、海外からの視点も取り入れ、世界の人々が日本を楽しむことができるようにする。

東京2020大会は、世界から日本・東京が注目される素晴らしい機会である。日本の人々にとっては、自らの国のことを再確認するよいきっかけでもあり、また世界中の人々には、日本・東京について改めて理解、発見、共感していただく機会でもある。日本・東京の魅力を一方向的に語るのではなく、世界の人々に共感や希望を感じていただきたい。

日本には、森羅万象を平等に慈しむ寛容性、季節の色彩や色合い、移り変わりを感しながら日常生活に取り込む心、異なる文化を取り込み新たなものに発展させる柔軟性、祭や神輿などの地域独特の文化、そして空間や表現における間、日本画における余白など、無を通して美しさを表現する美意識がある。開催都市東京には、町民が発展させた庶民のエネルギー溢れる江戸文化の伝統が今でも息づき、最先端の技術やアニメ、ファッションなど、世界をも魅了するモダンな文化の両方が存在して、伝統とモダンの独特な融合も東京のひとつの魅力である。これらに代表される日本・東京の寛容性、心、柔軟性、文化、美意識を、世界にどのように発信するのか考えることが大切である。

単に日本・東京から見た自らの素晴らしさを表現しアピールするのではなく、海外からの視点に思いを巡らせ、日本・東京の素晴らしさを一方向的に押し付けることのないよう、余裕を持って式典を構成していくこともまた重要である。

東京2020大会開会式・閉会式では、日本・東京の美しい感性を通じて、日本の方々だけでなく、世界の方々に心地よく楽しんでもらい、新たな発見をしてもらうことを目指したい。

○寄せられた御意見【日本・東京】

- ・江戸の庶民文化やイメージと、現在の東京をつなぐことができればよい。
- ・東京1964大会から今回までに日本で起こった出来事を取り扱う。
- ・日本古来の美意識のなかにある、性差を超える多様性を活用する。
- ・絶えることなく続いている文化の中で日々暮らす豊かさを直感的に表現し、視覚的にも感じて欲しい。
- ・日本の文化や素晴らしさを表現しても、誇示せず、ただ心地よい滞在体験を提供する余裕を持つ。
- ・日本の文化や歴史は過去から培われてきたことに着目し、温故知新の日本を表現したい。
- ・難しく考えるのではなく、日本や東京をシンプルに伝えるべきである。
- ・東京は水の都として美しく発展してきた。
- ・芽吹き、伸び、咲き、蒔く、植物が成長するサイクルのように、独自文化の成長や進化を捉え、開会式・閉会式自体の展開にも反映させる。
- ・四季や二十四節気のように季節を細やかに分け、季節ごとの色彩や色合い、季節の移り変わりを感じながら、日常生活に取り込む美意識を表現する。
- ・日本人は寛容で、深く人間を理解し、それをもとに文化を形成してきた。
- ・時間・空間における間や日本画における余白など、無を通して華やかさを表現する美意識を伝える。
- ・形無しではなく型破りで表現する。それは型を身に着けた上でこそ発揮することができるものである。
- ・近代以前の日本の伝統文化の文脈が、現代の問題を解決するヒントになるだろう。
- ・海外からは最も前衛であると捉えられている能のような古典で日本を表現するのが良いだろう。
- ・江戸時代の独特な色彩や情緒、うつろい、当時の音など、江戸文化を通して東京を魅せる。
- ・茶道や武道など日本の道（自分自身と向き合う姿勢を突き詰める末にたどり着く、至高の境地）を表現する。
- ・二度目のオリンピック・パラリンピックを開催する成熟都市にふさわしい日本文化、伝統、芸能などを披露できると良い。
- ・島国だからこそ培われた、派手さではない日本の粋や粋な姿を感じてもらいたい。
- ・東京、江戸っ子の優しさ、義理人情を思い出したい。
- ・日本のもつ繊細さと力強さの両方を見せる。
- ・日本には、新しいことの中に旧きを見出し、融合させる力がある。
- ・日本は多神教、アニミズムに基づく東西のわけ隔てない文化や宗教を取り込んできた。
- ・海外からクールと捉えられる日本と、日本人が認める日本とを融合する。
- ・日本は渡来する異種文化の良さを吸収し、発酵させ、新しい形を独自に発展させてきた。
- ・日本では異種多様な者たちが出会っても、自らの意志や個性を活かしたまま、柔軟に融合し共鳴させることができる。
- ・日本は、その気候や風土が育んだ、外来文化の本質や倫理観に対して、上手にいいところ取りをしてきた。

- ・日本人は考え方や行動にとらえわれず、物事を円滑に滞りなく進めることができる。
- ・派手な動だけではなく、日本ならではの静の演出も取り入れたらどうか。
- ・様々な伝統文化を、それぞれ動と静で短く構成することで魅力的に感じてもらえるだろう。
- ・日本や調和を表す和で、様々な人がスポーツで楽しむ中で、和して同ぜずの精神が表現できればよい。
- ・八百万の神のように、森羅万象そこかしこに神様をみる無邪気な国民性を表現する。
- ・混沌を混沌のまま受け入れる美学で、開会式・閉会式会場の内外の境界を曖昧にすることができればよい。
- ・目の前にあるものの形を変えるのではなく活かすことを第一に考えることで、より自然を感じさせたり、誰もが振り返るような深い印象を残すことができる。
- ・技能の達成よりも人間の情緒、優しさや細やかさ、艶や華などに注目する視点も大事にする。
- ・日本人にとってだけ心地よい環境にすることなく、海外の方の訪日に感謝し、日本に来てよかったと思ってもらえるようにする。
- ・論より証拠であり、日本の良さを見せるのではなく、体験して感じてもらうことで、日本の奥深いところまで知ってもらいたい。
- ・日本の素晴らしさを見せるより、日本を楽しんでいってもらうことが大切。
- ・日本人の思い込みにならないように、海外の人の意見を聞くことが大事。
- ・世界からの視点から逆算して、心の在り方を示していきたい。
- ・日本の長所や先進性を強調するのではなく、日本の心(和の心、おもてなしの心、他者への思いやりの心)を表現し、世界に伝えることができればよい。
- ・日本を押し付けるのではなく、見ている人が創造できるような表現がよい。
- ・世界の視点から、日本人の美意識や価値観を感じさせてほしい。
- ・海外から見て日本の特殊な点を理解しておく必要がある。
- ・海外の人が見て、真似したくなるような文化を見せて欲しい。
- ・海外の方にも有名な渋谷スクランブル交差点のような場所を用いて、演出を考えてほしい。
- ・若い世代の外国人に対する屈託のなさを活用する。
- ・日本人にとって、日本のアイデンティティを再確認できるきっかけになればよい。

【アスリート】スポーツの祭典として、主役のアスリートが安心して参加できる式典を目指す。

○式典の主役はアスリート。開会式は世界中のアスリートを歓迎、鼓舞し、閉会式は競技を終えたアスリートの健闘を称え、国を超えた交流の輪が広がる場とする。

○アスリートが安心して開会式・閉会式に参加できるよう、空間的、時間的にもコンパクトな式典運営を心がける。

オリンピック・パラリンピックの開会式はこれから始まる競技大会に向けてアスリートを鼓舞する場であり、閉会式は競技を終えたアスリートの健闘を称える場であるため、スポーツの祭典の幕開け、幕引きとして、アスリートが心地よく楽しむことができる式典にしなければならないだろう。

まず、開会式では、これから競技に臨むアスリートは自己ベストを尽くすため、コンディションの調整・保持に注力しなければならない。これまでの式典を振り返ると、アスリートを長時間拘束したものも多く、また日本の夏は、猛暑やゲリラ豪雨などがリスクとしてあげられるため、アスリートが安心して参加できるような式典運営をすることが求められている。

次に、閉会式は、競技で闘いを終えたアスリートが、国や種目を超えて交流し、友好を分かち合える場にしなければならない。アスリートの労をねぎらうことはもちろん、心が解放されたパーティーのように、開放的な雰囲気での式典にしていきたい。

オリンピック・パラリンピックに参加するアスリートたちは、開会式・閉会式に参加したいだろう。東京2020大会開会式・閉会式では、アスリートファーストを目標に掲げ、アスリートが安心して参加できる式典を実現していきたい。

特に、様々なルールや仕来りも考慮しつつ、コンパクトな式典運営を心がけていきたい。

○寄せられた御意見【アスリート】

- ・オリンピック・パラリンピックは文化祭ではなく、あくまでもスポーツの祭典である。
- ・スポーツに目が肥えた観客が、選手の気持ちを盛り上げる。
- ・競技を通じて、観客に与える感動にも注目をする。
- ・選手の魅力に熱狂することがスポーツの本質である。
- ・テクノロジーを活用するのはいいが、スポーツの本質を変えないようにする。
- ・アスリートファーストの精神で、アスリートに最高の檜舞台を用意したい。
- ・選手入場時の国名を呼ばれて競技場に入る瞬間の感動は忘れられないものである。
- ・選手入場には演出の余地があるような気がしている。
- ・競技を控えている選手に対して、待ち時間を含め、できるだけ負担にならず、気軽に参加できる式典にする。
- ・選手入場に関して、映像を使用する等の工夫をすることで、時間を短くし、選手への負担を減らすようにする。
- ・選手入場の際に、選手への「おもてなし」を表現したい。
- ・選手入場の際には、選手たちに最大のリスペクトがなされる演出が良い。
- ・競技場内に入場した選手にも、どの様な演出が行われているかわかるように配慮する。
- ・聖火の点灯、消灯は選手にとっても印象的な場面である。
- ・閉会式では、アスリート同士が入り混じり、心が解放されたパーティーのような雰囲気にとよい。
- ・閉会式では、競技で全力を尽くしたアスリートを労う場としたい。
- ・オリンピック・パラリンピックを目指している子ども達に、直に大会の空気を感じてもらい、モチベーションを上げる。
- ・参加するすべての選手だけでなく、国・地域を平等に扱う。
- ・開会式や閉会式でアスリートの凄さを、VRなどを使って、直に感じることもできるとよい。
- ・オリンピック・パラリンピックは、日本を見てもらう場はなく、世界中の4年間頑張ったアスリートたちの競技の場である。
- ・アスリートにとっては、オリンピック・パラリンピックは特別な舞台である。
- ・スポーツと芸術の組み合わせ、アスリートと芸術の組み合わせ等、普段組み合わせないものを組み合わせるとよい。
- ・VRなどのテクノロジーで競技参加の疑似体験でスポーツの普及に貢献できればよい。
- ・スポーツへの関心を高めるための、種まき活動を行っていく。

**【参画】 多くの人々が自分も式典に関わっていると感じられるような、
みんなで作る式典を目指す。**

- 多くの人々が、式典づくりやパフォーマンスに参加できる機会をつくることで、多くの交流を生み出す。
- スタジアム内だけで完結させず、テクノロジーなどを活用して、より多くの人に関わることができる仕組みをつくる。

開会式・閉会式は開催地の東京だけでなく、日本全体、さらには世界の国々とともに、みんなと一緒に作り上げられるような式典にしたいと考える。

2020年、東京で開催されるオリンピック・パラリンピック大会を成功させるためには、東京をはじめ、日本全体での盛り上がりを世界中に見せ、大会への期待感を波及させていくことが重要である。

そのためには、日本中の多くの人々に式典づくりや、パフォーマンスに参加してもらえる機会をつくることで、開会式・閉会式への興味を持ってもらい、日本全体の盛り上がりにつなげていく。

また、ソーシャルネットワークが普及している現在、日本だけでなく、世界中が一同につながるができるテクノロジーも普及している。これらのテクノロジーを活用するなどによって、日本だけでなく、世界各地で式典に参加できる仕組みも検討したい。

東京2020大会開会式・閉会式では、メインスタジアムの中だけで完結させず、日本各地はもちろん、世界に開かれた式典にすることで、多くの人々を巻き込み、一人ひとりが作り上げ、一体感を感じてもらえるものにしていきたい。

○寄せられた御意見【参画】

- ・疑似(V R)的な競技体験や、運営への参加体験といった行動を通じて、参加意識を啓発したい。
- ・誰でも参加ができる日本の祭のように、式典に誰もが気軽に参加できる仕組みを作り、日本の活力を伝えたい。
- ・テーマパークに遊びに行くような感覚で参加できる大会にして欲しい。
- ・開会式・閉会式でのパフォーマンスはきっかけでしかなく、そのパフォーマンスを見た人がどのようにポジティブに変わるかが重要である。
- ・式典に参加してもらうためには、制作段階から、個々の日常生活にどのような影響・きっかけを与えられるかが重要である。
- ・多くの人に自らの得意分野で参加してもらい、自分事のように感じてもらえればよい。
- ・多くの方々に参加してもらうための仕掛けや仕組みを作っていくことが必要である。
- ・テレビで見るだけでなく、スマートフォン等で、今までにない新しい参加の形として、世界中の人達をつなぎ、主体的に参加できる全員参加型の開かれた仕組みを作れるとよい。
- ・スマートフォン、インターネット技術を駆使し、遠隔地(世界)をつなぐ演出があるとよい。
- ・多くの人に参加し、交流することで、日本人が世界へ、より心を開くきっかけにしたい。
- ・ソーシャルメディアを介して、世界中で共通のメッセージへの共感を表明できればよい。
- ・次の時代を背負っていく日本中の子どもたちが、開会式・閉会式の体験を同時に共有できる仕組みがあるとよい。
- ・スタジアムの外でも盛り上がる事のできる場を設け、外へ開かれた式典を目指すべきである。
- ・全国の子どもたちが参加できるボランティアがあってもいい。
- ・東京だけでなく、地方と協力し参画を促すことで、地方の文化や地域コミュニティの魅力を発信できるとよい。
- ・プロだけでなく、地域で草の根で頑張っている文化、芸術団体も参画できるようにしたい。
- ・日本全国の演者、パフォーマーをプロアマ問わず、プロセスとして巻き込めるとよい。
- ・東京以外の方たちの一体感を高め、全国民が東京2020大会に関わりを持っていると認識し、大会開催への高揚感を生み出す。
- ・自分たちで作り上げると、楽しいものになる。
- ・日本国民の感受性を世界に楽しく伝えるために、国民全体にアイデアを募るのもよいと思う。
- ・開会式・閉会式の場で、観客全員が心をひとつにして大会を成功させようとする意志を共有できる仕組みをつくる。
- ・観覧者全員で手をつなぎ、全世界の友情を確かめる。
- ・多様な文化を受け入れ、全参加国で一緒に作り上げる演出で、各国代表が手をつないで輪になって踊るなど、一体感を生み出せることができればよい。
- ・選手と観客とが一体になる振りや動作を取り入れる。
- ・スポーツを好きな人も興味がない人も快く楽しめる開かれた開会式・閉会式だとよい。
- ・日本の祭の神輿や山車、踊りのように、世界中の多くの方とつながる機会を作りたい。
- ・競技大会中にも開会式・閉会式の準備イベントを続けて、即興で誰もが参加できるようにし、それが次の式典に反映される仕組みがあるとよい。
- ・会場外での取り組みも活発に行い、多くの人が開会式・閉会式を体感できるようにする。
- ・ボランティアや観客の力を上手に活用しないと、成功することはない。

【ワクワク感・ドキドキ感】**熱気や興奮を感じられ、一生に一度の体験となるような機会とする。**

- メッセージを大切にした上で、観客や視聴者に興奮や驚きを提供する。
- 日本や世界の子どもたちをはじめ、人々の記憶に残る開会式・閉会式を目指す。

オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式は、アスリートと何万人もの観客がスタジアムに集うとともに、何十億人ものテレビ、デジタルメディアによる視聴者が注目する世界最大規模のイベントである。特に日本の多くの人々にとって、自国での開催は、一生に一度あるかないかの貴重な機会である。

世界最大規模のライブイベントとして、世界中、日本中の人々にとって一生に一度の体験となるエンターテインメントでありたい。

東京1964大会でブルーインパルスが青空に五輪を描いた感動やロサンゼルス1984大会でロケットマンが空を飛んだ驚きを今でも記憶している人は多いと思う。東京2020大会開会式・閉会式では、テレビやメディアを通して観る世界中の人々とも距離を超えて臨場感を共有するとともに、文化、言葉、障がいなどの違いも超えて、全ての人々が五感を通じて、興奮や感動、ワクワク、ドキドキすることができる時間・空間にしなければならないだろう。

また、最新のテクノロジーと日本の創造性、知恵を駆使して、これまでのオリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式にはなかった挑戦をすることで新しい世界を予感させ、次世代を担う若者、子どもたちをはじめ、様々な人々の人生の中で、記憶に残るエンターテインメントを目指したい。

○寄せられた御意見【ワクワク感・ドキドキ感】

- ・多くの課題に対し、日本人ならではの感覚や考え方、向き合い方を通じて、世界の人々や日本の人々が未来は暗いものではなく、明るく、楽しいものとして見せたい。
- ・セレモニーとしての厳粛さと楽しい盛り上がりを両立させていただきたい。
- ・見た目、身体機能、言語、性別、民族など、さまざまなことが違う人たちが集まるところに、友情が芽生え、楽しさが生まれるということを表現するとよい。
- ・耳が不自由、目が不自由でも式典を楽しみにしている人がたくさんいて、解説を入れて場面を理解しやすくする等、そのような方にも式典の熱気を感じてもらいたい。
- ・説明不要で、一目見ただけでメッセージがわかる表現方法がよい。
- ・観客も楽しめて、やっている方も楽しいという状態を作れば。
- ・小さい子どもたちの印象に残るような開会式・閉会式にしたい。
- ・障がい者の人達も一緒に歌う、踊る等で会場全体が参加でき、一体となって楽しめたらよい。
- ・見ている方もやっている方も楽しめて、関心が持てるという場の雰囲気作りが大事である。
- ・日本のお笑いも多少入れるなど、少し日本のユーモラスな文化も楽しめたらよい。
- ・決め事をやるのではなく、エンタテインメントに振り切り、派手なかつこよさも大切である。
- ・エンターテインメントやテクノロジーの力で、より面白く、楽しく伝え、世界中の人が非日常を感じ、ワクワクできるようにする。
- ・会場の内外関係なく、見ている人に驚きや興奮を与えなければならない。
- ・日本のマンガやキャラクターなどのユニークさで笑いも取り入れ、世界が一つにつながる、あたたかく、そして楽しいテーマパークのような夢を感じてもらいたい。
- ・式典の中にいくつか、人々を驚かせるポイントを作り、強烈なインパクトを与え、人々の記憶に残るサプライズに期待したい。
- ・聖火点灯は、一番のサプライズであり斬新なアイデアが必要である。
- ・一人でも多くの方の感情を動かす「感動」が生まれる式典にしてもらいたい。
- ・スポーツだけでなく、芸術にも未来を変える力がある。
- ・世界が驚く、理念あるエンターテインメントにする必要がある。
- ・伝統を体現できて初めて革新的な実験ができ、実験で得た新しいことを伝統に戻す。
- ・静と動のつながり目やスピード感が人を魅了し引き付けるのである。
- ・高い技術力を使用し、伝統文化や日本社会、スポーツを最先端テクノロジーを掛け合わせることで、新たな価値を発見ができ、未来を見せることができる。
- ・テクノロジーをより良く見せる場合、見せびらかすのではなく、一見相対する文化や美の中にテクノロジーを完全に練り込み、テクノロジーを感じさせないようにしたい。
- ・目に見えないテクノロジーを判り易く実感させ、ライブを超える臨場感を訴求する。
- ・テクノロジーの進化が、障がいを乗り越えていく様子を表現する。
- ・先進技術を利用し、斬新な演出を行い、未来を見せる。
- ・革新を生み出したり、受け止めたりする感性は、基本の習得あってこそできる。
- ・比類ない機会だからこそ、取り組める斬新なアイデアを実現したい。
- ・事前に考えていたもの以上のことが現場で起きることも、一種の革新であるだろう。
- ・今まで知らなかった国を応援したいと思えるような取り組みをし、競技の盛り上げにつなげる。

4つの式典を一連の四部作と捉え、 起承転結となるよう、メリハリを付けて構成する。

(起) オリンピック開会式

- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の扉とする。
- ・国内外からの注目度が最も高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・大会の歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトも活かしていく。

(承) オリンピック閉会式

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、会場を一体化する。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。
- ・次の世代に受け継いでいくべき価値を示す。

(転) パラリンピック開会式

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市である。
- ・互いに認め合い、助け合う共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

(結) パラリンピック閉会式

- ・東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレである。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間・社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

東京2020オリンピック・パラリンピックの開会式・閉会式で世界にアピールしたい日本や東京のいいところ、アピールしたいことについて多くの御意見をいただきましたので紹介します。

【ご意見件数】

○組織委員会HP(6/12~8/31)	1,083件
○大学連携イベント(6/24)	273件
○オリンピック3年前イベント(7/24)	201件
○パラリンピック3年前イベント(8/25)	

✓ 過去と未来が混在する都市

過去=例として、町の区画（丸の内オフィス等、武家屋敷等、江戸時代のレガシーを基に町が作られている。）台東区、墨田区には江戸時代の風情が残っている。未来=技術都市、強いていえばテクノロジー。電子音楽が一つの例。（20代）

✓ 日本らしさ、東京らしさ、子供、女性をアピール

科学技術、日本のこども、東京の女性（リケジョ）もPRし、東京2020大会後の日本・東京をアピールして下さい！（50代）

✓ 伝統的な「和」の様式と未来・現代的なテクノロジーな側面を同様にもっているところ

たくさんの外国人が日本の伝統を見に訪れます。日本の伝統とは、茶道、着物、禅です。これらを世界に見せることはとても重要です。なぜなら、世界の人々が日本のユニークな文化はどの様に作られているのかを理解する事ができるからです。（20代）

✓ 街が清潔なところ、人々が勤勉なところ

外国人の方からいつも言われているから。（50代）

✓ 世界の平和が第一

皆が手を繋ごう。（70代）

✓ 歌舞伎、能、狂言といった日本の伝統芸能とアニメやカワイイ文化などサブカルチャーの融合

東京ならではのスポット紹介→こちらも江戸時代の名所とまさに現代の名所の両方で取り上げる。現在と過去を世界にアピールすることで、日本と東京の未来を示すことになると思う。（50代）

✓ 東京→日本の中心的繁華街がいっぱい集まっている

新宿、池袋、渋谷、銀座等なかなかこんな場所はないと思います。（20代）

✓ 日本選手団は着物をモチーフにした服で、行進したら面白いと思います

（50代）

（次ページへ続く）

【組織委員会HP・6/24大学連携イベント・7/24オリンピック3年前イベント ・8/25パラリンピック3年前イベントでいただいたご意見】

- ✓ ゆかたとかはっぴを着て、選手入場をしてほしいです。外では、屋台みたいなのをおいて、五輪のまつりをやってほしいです。江戸時代を復元するか…
パソコンやスマホやITが発達しすぎて素朴な心を忘れつつあると思います。大人も外国人も童心に帰れるようなオリンピックにしてほしいです。（50代）

- ✓ 「よさこい」は今、小学校で踊り継がれています
世田谷区城山小学校では「スーパーよさこい」をエレキギターで弾いています。
日本のよさと、子どものエネルギーをアピールでると思います。（40代）

- ✓ 天災に負けない力
ゼロからのスタートに対しても、国民が前向きであること（40代）

- ✓ ラジオ体操
日本特有、誰もが知っている。世界の人にも知ってほしい。ただし、正しい体操で！（50代）

- ✓ 多種多彩
東京は文化や人種、考え方の違うことを受け入れている方だと思うので（40代）

- ✓ 障がい者にもやさしいオリンピック
私は障がい者で、まだまだ案内などが不十分だと思っている（50代）

- ✓ 日本のモノづくりとアートの原点である火焰型土器に象徴される縄文文化
縄文文化は日本文化の源流であり「自然との共生」を基本に、大きな争いもなく平和で安定した暮らしを1万年以上営んでいたと言われていています。その象徴「国宝・火焰型土器」を東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に採用いただき、世界に向けて縄文文化の素晴らしさを発信していただきたい。
（50代）

- ✓ キレイで安全
道路にゴミがあまりない。落とした財布やパスモなどが返ってくる。ベンチなどに荷物を置いたままにしても、盗まれない。（10代）

- ✓ 交通網、様々な文化が混ざっている
1本逃しても、またすぐに次の電車がくる。多くの場所まで広がっており、短時間で遠くまで行ける。
アニメだけでなく、食べ物（和菓子など）いろんな日本の文化が集結している。また、海外の最先端のものも入ってくるため、日本の古くから引き継いできた文化と外国の最先端のものが入り混じっている。
（20代）

- ✓ 水がきれい
海外に行くと日本の水のきれいさをすごく感じる。（20代）

(次ページへ続く)

【組織委員会HP・6/24大学連携イベント・7/24オリンピック3年前イベント ・8/25パラリンピック3年前イベントでいただいたご意見】

✓ わびさび

日本にしかない上品な雰囲気だから。(20代)

✓ トイレ・サービスの良さ・街がキレイ

技術がすごいから。サービスに関しては世界一だから。町のキレイさも世界TOP10には入ると思うから。(30代)

✓ 列に並ぶところ

震災の時とかに並ぶことでスムーズにいったから。(10代)

✓ 健康に良い食事、海に囲まれている、方言が可愛い。

昨日ドラマを見て、方言とか、いのしし鍋とか良いなと思った。(10代)

✓ 水道水が飲める

海外に在住していたときに水道水は飲料用ではなかったため不便だった。(20代)

✓ 集団行動

皆で協調しあい団結する力がすごいから。(10代)

✓ 人の親切さ・礼儀

日本独自の文化だと思うから。そして、日本共通の意識だと思うから。(10代)

✓ 温泉

資源は少ない国と言われてますが、人を元気にする温泉は日本全国にももちろん東京だってあります！！スポーツの後は、日本の文化の温泉を！！(30代)

✓ コンビニ

おいしい・べんり(20代)

✓ ごはんがおいしい・治安がいい

白米、抹茶、味噌汁おいしいです。日本人は落し物を拾ったら、ポリスに届ける多くの人。(10代)

✓ 接客態度がバツグン！丁寧な対応力！

外国でのお店での接客に比べて、日本の店では「いらっしゃいませ」と「ありがとうございます」を徹底しているから。(20代)

(次ページへ続く)

【組織委員会HP・6/24大学連携イベント・7/24オリンピック3年前イベント ・8/25パラリンピック3年前イベントでいただいたご意見】

✓ 規範意識の高さ

時間に対して厳格な人々が多いことが印象的だとよく言われるので。(20代)

✓ 街それぞれの個性が豊か

個人の個性が発揮できるから。(10代)

✓ 小学生が一人で電車通学できるほど、治安がいい

外国では考えられないようなことも治安が良い日本ではできるから。(10代)

✓ 風流があるところ

「風流」は日本独特の文化だと思うから。(20代)

✓ KAWAII／日本語（オノマトペ）

日本発 世界共通語・日本独特の表現がたくさんある。(20代)

✓ 自動販売機設置率が高い

オリンピックは夏に行われるので脱水症状対策になる。(20代)

✓ 日本の工芸品の良さについて

日本人の生活に根差し、暮らしを彩ってきた工芸品は、日本人の美意識を世界に強くアピールするであろう。(50代)

✓ 日本全国が一丸となって盛り上がっている姿勢

東京だけの盛り上がりではなく、日本全体の盛り上がりのスタート地点としての開会式を作るべき。
(30代)

✓ 漢字、カタカナ、ひらがな、アルファベット、絵文字の5種の文字の使い分け様々な日本文化

この沢山の文字の使い分けに表れている、日本人の脳と身体の構造（右脳と左脳、記号認識と象徴認識など）に全て起因していると思うので。(50代)

ヒアリングにご協力を頂いた方々

青木保	青山幸恭	秋池玲子	秋元康	秋元雄史	秋山哲男	浅葉克己
朝原宣治	麻生泰	穴井隆将	荒木田裕子	安西祐一郎	安藤洋二	家田仁
猪谷千春	池田信太郎	池田正一	池坊専好	石井幹子	石井ユミ	石川聡
石黒一憲	石戸奈々子	泉ピン子	泉正文	伊勢清貴	市川海老蔵	市川紗椰
伊藤数子	伊東信一郎	稲見昌彦	井上苑子	いのうえひでのり		今中博之
今村久美	上島雪夫	上田良一	上山容弘	笛吹雅子	EXILE HIRO	
枝廣淳子	榎田竜路	榎本智司	及川晋平	王貞治	太下義之	大田弘子
大友啓史	大橋明	大畑大介	大前光市	岡村正	翁百合	尾崎治夫
落合陽一	小山久美	織作峰子	桂文枝	金谷かほり	鎌田由美子	上條清文
川井しげお	河合純一	川嶋明	河野博文	川淵三郎	川村元気	観世清和
岸井隆幸	北岡伸一	北原義一	狐崎浩子	絹谷幸二	キャシー・松井	
ロバート キャンベル		久貝卓	草刈民代	工藤鉄男	国枝慎吾	熊谷晋一郎
熊倉純子	隈研吾	栗栖良依	黒川光隆	小池百合子	五井憲子	河野一郎
河野雅治	コシノジュンコ	小杉善信	小菅洋人	小谷実可子	後藤正幸	小西雅子
小林耕士	小林公正	小林光俊	小牧次郎	駒下純兵	小宮正江	小宮山宏
小山くにひこ	近藤順夫	近藤良平	紺野美沙子	今野義範	齋藤秋水	才藤栄一
齋藤里香	崎田裕子	迫本淳一	佐々木宏	佐藤耕二	佐渡裕	真田久
佐野慎輔	澤邊芳明	三遊亭円楽	椎名林檎	SHELLY	塩見清仁	地下誠二
篠田信子	篠原弘道	柴田岳	下重暁子	首藤登志夫	白川美紀	菅野薫
菅原智恵子	杉野学	杉山愛	鈴木俊一	鈴木大地	セーラ・マリ・カミングス	
関根明子	関根英生	銭谷眞美	千玄室	千宗室	平一彦	高巖
高倉麻子	高嶋達佳	高島なおき	高田創	高橋剛	高橋尚子	高橋治之
田川博己	田口亜希	武市敬	竹田恆和	竹本和彦	建畠哲	田中稔三
田中暢子	田中理恵	田中里沙	谷本歩実	為末大	千葉和義	張富士夫
津賀一宏	辻井伸行	辻沙絵	土田和歌子	堤剛	東実森夫	東福寺一郎
富重圭以子	富山和彦	直田益明	中川順子	中川翔子	中田ヤスタカ	中林一樹
中村太郎	中村春基	中村由行	中森邦男	夏木マリ	夏野剛	成田真由美
南條史生	西川箕乃助	西村義明	蜷川実花	野田秀樹	野村萬斎	
Paola Antonelli		萩生田光一	萩原智子	萩原美樹子	橋本聖子	畠中達郎
パトリック・ハーラン		林芳正	原田劉静織	針谷了	半田一登	
Peter Langan		日枝久	東村邦浩	樋口昌之	久石譲	日比野克彦
平岡英介	平田オリザ	平松礼二	廣瀬隆喜	檜原麻希	深澤晶久	福地献一
藤沢薫	藤沢烈	藤野純一	藤丸真世	不老安正	細尾真孝	細田衛士
前川万美子	牧阿佐美	増田宗昭	松岡正剛	松下功	松島克守	松永共広
松嶺貴幸	松本正義	松山大耕	松山良一	真鍋大度	間野義之	
マリ・クリスティーヌ		丸山実子	三浦恵子	MIKIKO	三雲薫	水野映子
御手洗瑞子	宮川美津子	宮家邦彦	宮廻正明	宮嶋泰子	宮田慶子	宮部義幸
宮本亜門	村井純	村田吉弘	村中志朗	村松佐和子	目黒公郎	
モーリー・ロバートソン		本橋春紀	森口祐一	矢ヶ崎紀子	野城智也	柳原正樹
山崎貴	山崎亮	山田淳也	山田英樹	山本寛斎	山本信夫	山本博
山脇康	結城和香子	豊吹雪	ヨコゼッターランド		横川浩	横倉義武
横張真	吉田和憲	吉田直人	吉田正人	吉見俊哉	吉本光宏	依田巽

「東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム」について

- 今般の基本コンセプトにある“4式典を一体と捉えた”基本プランを作成していくため、「東京2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム」を設置。
- まずは基本プランを策定した上で、来夏に4式典の監督を選定し、各々制作に入っていく。

1 基本的な考え方

- 基本コンセプトにおいて、オリンピック開会式からパラリンピック閉会式までの4つの式典を、バラバラではなく、一連の四部作ととらえていくとの方針が盛り込まれた。
- まずは、この4式典全体のプラン・ストーリーを作る体制を立ち上げることとしたい。
- その際、一個人に頼るのではなく、チームでの力を活かすとともに2020年以降も世界で活躍する世代を積極的に活用していきたい。
- 上記の考えのもと、以下の観点でチームの人選を進めた。
 - 4式典全体のプランを作り上げていくに当たり、式典が舞台的要素だけでなく、世界中にテレビ・WEBを通じて放映されることから、映画制作に携わり、映像とストーリーを統合できる人材が必要ではないか。
 - 基本コンセプトにある日本・東京の伝統を演出できる人材、また、共生・パラリンピックを表現できる人材が必要ではないか。
 - 内外の評判を得たリオ大会のハンドオーバーのチームの知見も活用すべきではないか。
- 4式典の監督選定に先立ち、総合プランニングチームを立ち上げるのは、東京2020大会ならではの新しい試み。

TOKYO 2020

2 チーム編成

別紙参照。

3 役割

以下の事項について検討し、基本プランとしてとりまとめるとともに、4式典の一体化を図る。

- (1) 4式典全体で発信するメッセージ・ストーリー
- (2) 各式典それぞれで展開するメッセージ

4 期間

2017年12月～

5 今後のスケジュール

- 2018年夏ごろを目途に、基本プランをとりまとめ、その後各式典の監督を選任する予定。
- 監督は、有識者懇談会及び理事会での審議を経て決定する。

TOKYO 2020

東京 2020 開会式・閉会式 4式典総合プランニングチーム 名簿

氏 名	肩書等
かわむら げんき 川村 元気	映画プロデューサー/小説家
くりす よしえ 栗栖 良依	クリエイティブ プロデューサー クリエイティブ ディレクター
ささき ひろし 佐々木 宏	クリエイティブ ディレクター
しいな りんご 椎名 林檎	演出家 音楽家
すがの かおる 菅野 薫	クリエイティブ ディレクター クリエイティブ テクノロジスト
のむら まんさい 野村 萬斎	狂言師
みきこ MIKIKO	演出振付家
やまざき たかし 山崎 貴	映画監督

(平成 29 年 12 月 20 日時点)

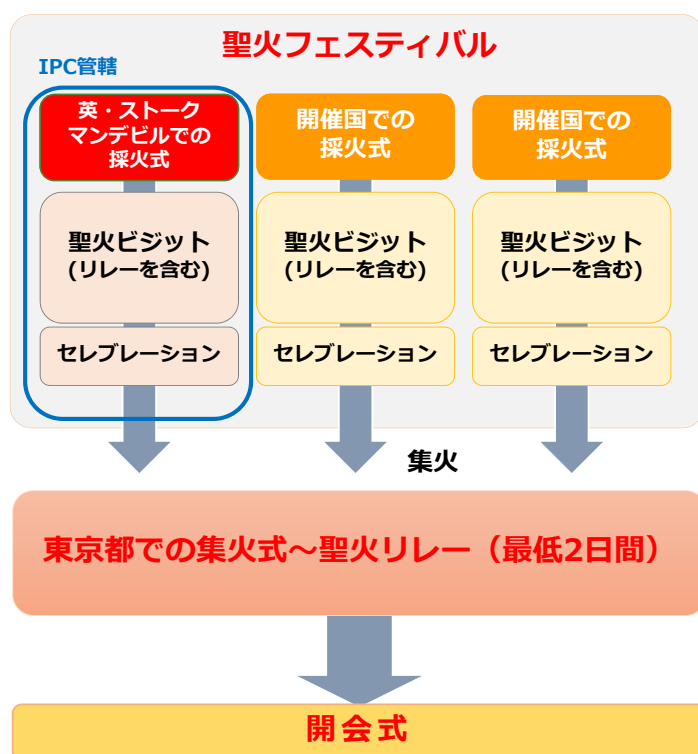
(五十音順、敬称略)



東京2020パラリンピック聖火リレーの コンセプトについて

2017年12月20日

パラリンピック聖火リレーとは



- オリンピックからの移行期間中に勢いや興奮を維持し、人々にパラリンピックの精神及び価値を伝える役目を持つ。
- オリンピック選手村の閉村後（8/13）から開会式（8/25）までの間のうち、最低7日間行う。
- イギリスのストックマンデビルと、日本国内複数都市で「聖火フェスティバル」を行う。
- リオの聖火ビジットは、パラスポーツのトレーニングセンター、特別支援学校、リハビリセンター、コミュニティセンターなど4～5か所の施設を訪問した。
- 最低2日間は、開催都市東京都で集火して聖火リレーを行う。



IOC及びAtos との契約締結について

2017年12月20日

1. 審議事項

東京2020大会において、組織委員会が各ステークホルダーに対して各種ITサービス(特にスポーツ・オペレーションに関する分野)を提供するために、当該カテゴリのTOPパートナーであるAtosおよびIOCとの間で包括的な供給契約(Particularised Agreement、以降PA)を締結することを承認を頂きたい。

※PA (Particularised Agreement) とは？

- ・IOC・Atos・組織委員会との間で締結するITサービスの供給契約。
- ・開催都市契約において締結が義務付けられている。
- ・契約記載事項の大半は、過去大会からの経緯・内容を引き継いでいるが、追加競技対応も含め一部東京大会に向けた修正を反映済み。

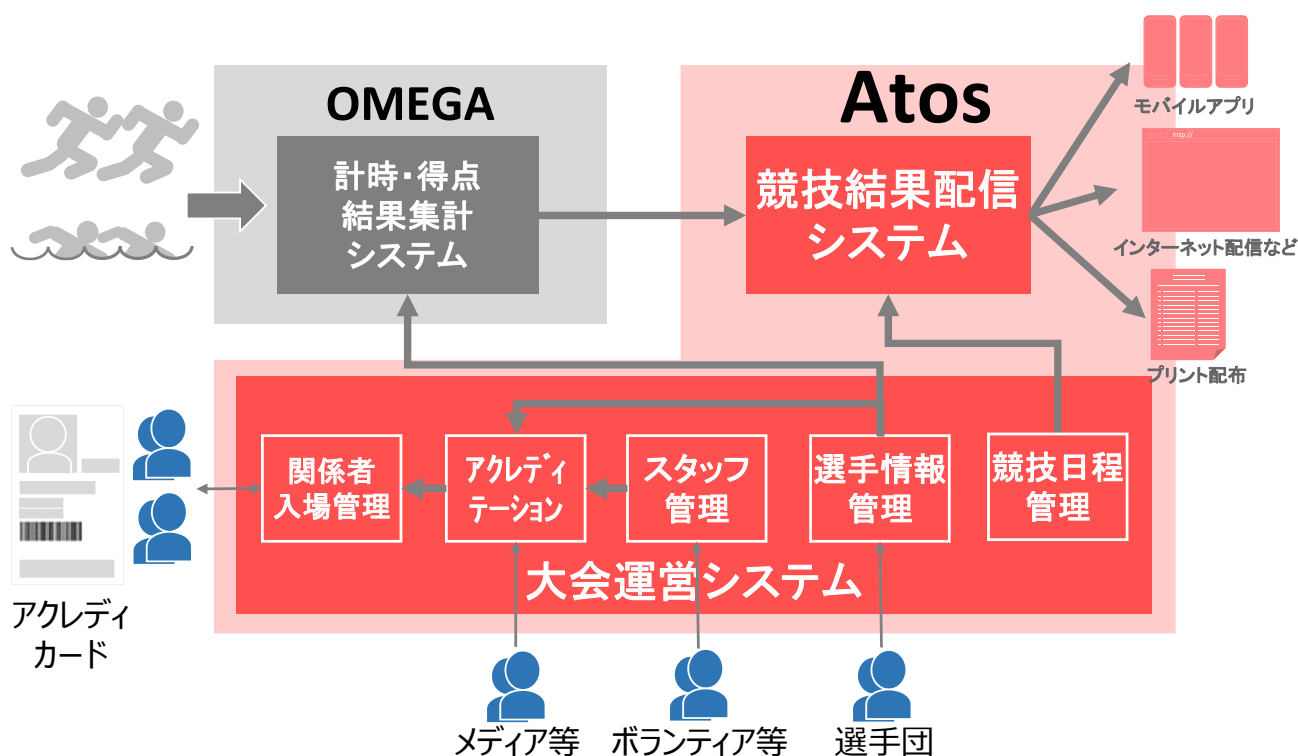
2. 実施内容（契約内容）

PAにもとづきAtosから提供されるサービスは以下のとおりである。

1. ITサービス全体の統合管理
2. 競技結果配信システムや、大会運営システムの開発及び運用とサポート
3. 上記システムが稼働するデータセンター環境の提供と運用

TOKYO 2020

2. 実施内容（主な対象システム）



TOKYO 2020

2018年度以降のオフィス確保

資料1-4

- 大会運営において不可欠な各種センター機能とオフィスを一体で設置し、組織内の緊密な連携のもと、業務の効率化と円滑な調整を図ることが必要。競技会場等からアクセスの良い臨海部にてオフィスを確保し、一体運営を実現
- 具体的には、大規模なオフィススペースの確保に向けて2018年度より段階的に晴海トリトンスクエアを賃借すると共に、2019年度より既存オフィスの賃借見直しを通じて効率的な業務運営を実現

晴海トリトンスクエア



(外観)



物件名	晴海トリトンスクエア		
場所	中央区晴海1-8-11 etc. 【最寄】勝どき 徒歩4分		
フロア面積	2018年度 約2,500坪	総計	約10,000坪
	2019年度 約7,500坪		
竣工年月	2001/3		
事業主	住友商事 / 第一ビルディング		

(C)2017ZENRIN(208E-第793号)

TOKYO 2020



(Tokyo 2020 理事会資料) 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト（進捗報告）

2017年12月20日



プロジェクトの現状

回収拠点と実績（4-10月累計）

NTTドコモ：約**178万台**の携帯電話等（全国約2,400店舗のドコモショップ）

自治体：約**1874トン**の小型家電（全国1262自治体、全国累計6023か所）

- オリンピック・パラリンピック大会史上初の取り組みとして国内外で反響
- 本年4月の開始以降、参加自治体数も順調に増加、全自治体の約7割が参加
- 回収は概ね想定どおり
- 今後の対応として、引き続きプロジェクトの周知・PR活動を行うとともに **銀をより多く含むPCなどの回収強化**にも取り組んでいく

回収手法の拡大

全国ドコモショップや自治体窓口での回収に加え、企業からの業務用小型家電提供や小型家電の一般廃棄物からのピックアップなど、回収手法を拡大

全国のドコモショップ等での回収

店舗数：
全国約2,400店舗



参加自治体での回収

参加自治体：約1,200自治体

※2017年12月現在

小型家電リサイクル認定事業者：46社

回収手法拡大

+

企業からの提供（本年8月～）

Tokyo2020パートナー企業等
計38,000台

+

ピックアップ回収開始（本年10月～）

一般廃棄物から使用済み小型家電を
ピックアップ

各種イベントでの回収実施

各種イベントにて回収ボックスを設置

プロジェクトの周知を図るとともに、より多くの人々の参加を促す

■ 6.24 Tokyo2020学園祭



■ 8.25 パラ3年前イベント



■ 11.21 都庁回収イベント



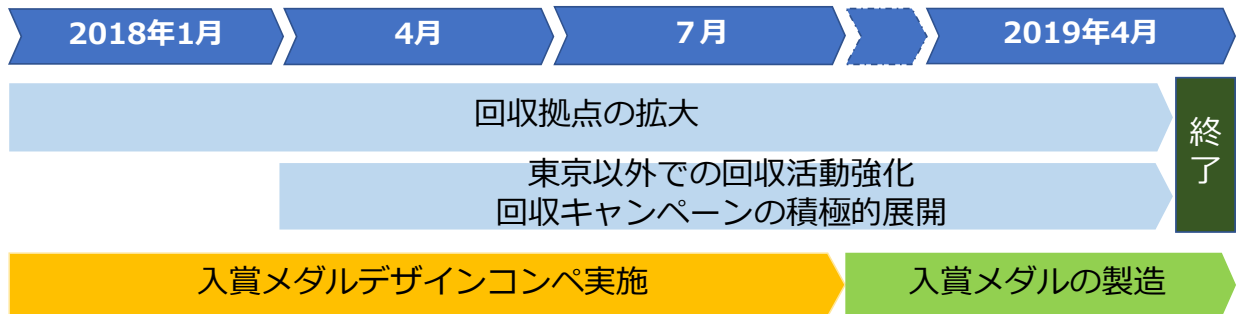
■ 11.29 パラ1000日前イベント



今後の活動について

- PC等、携帯電話以外の小型家電の回収強化
 - ✓ 回収拠点の拡大（自治体以外での回収拠点の増加）
 - ✓ 東京以外での回収活動強化
 - ✓ 回収キャンペーンの積極的展開（年末大掃除、お引越しキャンペーン等）
- 本日からメダルデザインコンペを開始。本プロジェクトも新たなステージへ

スケジュール(イメージ)

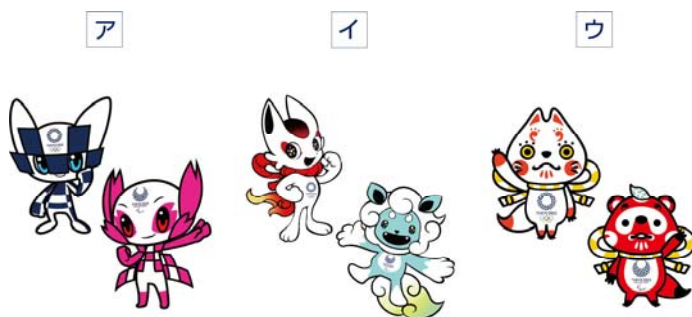




マスコット選考状況報告

2017年12月20日

<12/7(木)大会マスコットの最終候補3案を発表>



マスコット最終候補3案



12/7(木)発表会の様子

- ・ 12/7(木)渋谷区の加計塚小学校において、マスコットの最終候補案3案を発表。
- ・ 発表された3案については、12/1(金)のマスコット審査会において制作過程の確認および国内・国際商標調査がすべて完了したものであるとして、承認を得たもの。

<12/11(月)マスコット小学生投票スタート>

- ・12/11(月)全国の小学校の各クラスを舞台としたマスコット小学生投票がスタート。
初日には、東京都飛田給小学校・東京都府中けやきの森学園・福島県吉井田小学校の3校3クラスにてメディア取材を入れた授業を実施。
 - ・各小学校の現状の参加状況(12/19(火)10時時点)は、
 - 10,010校が事前登録
 - 841校が投票実施
 - 116自治体が全校投票宣言を実施
- なお、投票は2/22(木)の期間まで実施。2/28(水)に投票結果を発表予定。



東京都飛田給小学校の様子



東京都府中けやきの森学園の様子



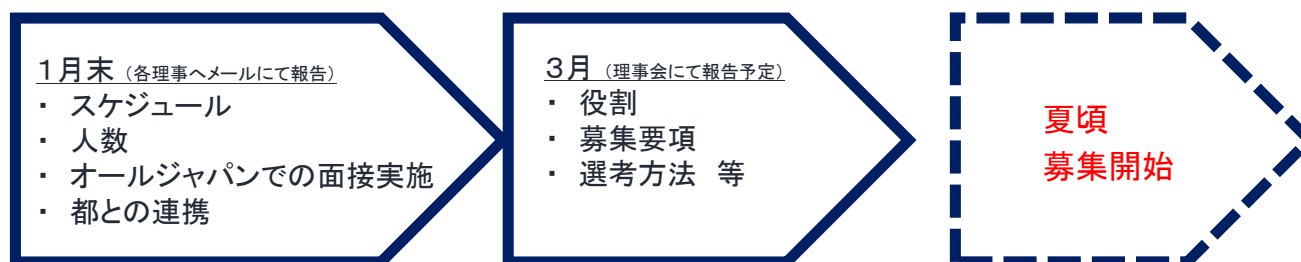
福島県吉井田小学校の様子



ボランティアプログラムについて

2017年12月20日

理事への報告スケジュールについて



参考)ボランティアプログラムについて

東京2020大会ボランティア活動への参加は、大会に関わる多くの人と一丸となって大会を作り上げることで、他では決して得られない感動を体験する貴重な機会となる。

- － 関係自治体や企業等との連携を促進し、オールジャパンで大会の盛上げを図っていく。
- － 年齢、性別、国籍、障がい者の有無等に関わらず様々な人々がいきいきと活躍し、大会後もボランティア活動を継続できるような取組を検討していく。

※「東京2020大会に向けたボランティア戦略」より抜粋（平成28年12月公表）



IOC理事会及び 第5回IOC調整委員会会議について

2017年12月20日

(1) IOC理事会概要

- 1 開催日 平成29年12月5日（火）、6日（水）
※ 東京のプレゼンは12月6日
- 2 場 所 ローザンヌ（スイス）
※ 東京のプレゼンは、本会虎ノ門オフィスから
テレビ会議システムを通じて実施
- 3 出席者
IOC側 バッハ会長、コーツIOC調整委員会委員長、IOC理事
東京側 森会長、
河野副会長、竹田副会長/IOC委員、
武藤事務総長、
中村CFO、室伏スポーツ局長

(1) IOC理事会概要 (続き)

4 内 容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等

スポーツ／会場／エンゲージメント

5 その他

(1) アーバンスポーツ会場

以下の競技会場についてIOCに提案し、承認を得た。

- ・バスケットボール（3×3）：青海アーバンスポーツ会場
- ・自転車競技（BMXフリースタイル）：有明BMXコース
- ・スケートボード：有明BMXコース

(2) 大会マスコット

最終候補3案をIOCに提案し、承認を得た。

TOKYO 2020

(2) 第5回IOC調整委員会会議の概要

1 開催日 2017年12月11日（月）～13日（水）

2 場 所 虎ノ門オフィス

3 出席者

IOC側 コーツIOC調整委員会委員長、ギラディ同副委員長、同委員、スタッフ

東京側 森会長、遠藤会長代行、

河野副会長、竹田副会長、山脇副会長、猪熊副会長、

武藤事務総長、

布村副事務総長、

佐藤副事務総長、

坂上副事務総長、

古宮副事務総長、

山本副事務総長、

東京都、JOC、政府 ほか



TOKYO 2020

(2) 第5回IOC調整委員会会議の概要（続き）

4 内容 東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等

<12月11日（月）>

○オープニング全体会議（全体プレゼンテーション）

エンゲージメント／イノベーション／人材管理／財務／会場

○会場視察

青海アーバンスポーツ会場（車窓）／有明BMXコース／有明体操競技場
カヌースラローム

<12月12日（火）>

○ワーキンググループ

マーケティングパートナー／アスリート&NOC／観客／スポーツ&IF
メディア／オリンピックファミリー／パラリンピック競技大会
アーバンクラスター&サーフィンフェスティバルテクノロジー

<12月13日（水）>

○ワーキンググループ

会場（関係自治体）

○クロージングセッション

TOKYO 2020

コーチ委員長からのコメント（要旨）

- ・ 組織委員会は、大会が東京、そして日本に有益なレガシーを残すために全力で取り組んでいる。
- ・ 日本の方々にとって記憶に残る経験になるよう、様々なインタラクティブな取組を実施している。
- ・ 今回の訪問においても、東京大会が素晴らしい大会になるという確信を得ることができた。



TOKYO 2020



2018年お正月・平昌冬季大会時のライセンス商品展開

2017年12月20日

EMBLEM CROPPING DESIGN 11月販売開始商品



風呂敷バッグ



風呂敷バッグ



ポケットブルバッグ



バスタオル



ミニタオル



ポケットブルバッグ



バスタオル



ミニタオル



豆皿



ステンレスボトル



カフェタンブラー



豆皿



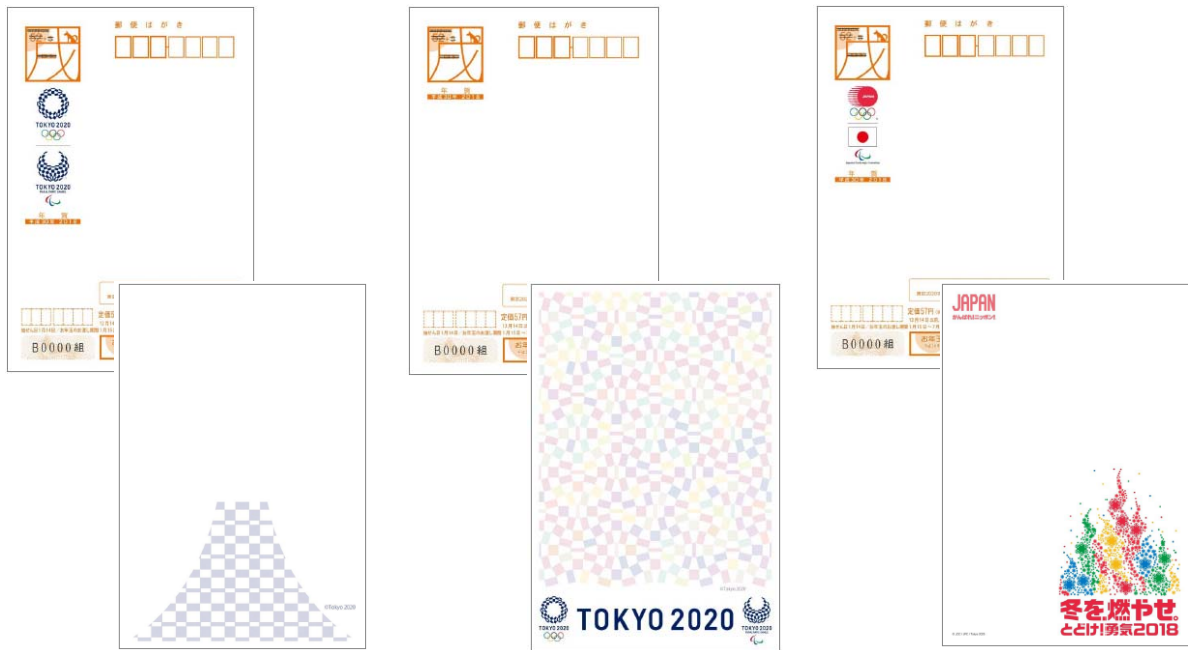
ステンレスボトル



カフェタンブラー

2018年 お正月商品① 12月1日（金）販売開始

◎【日本郵便】寄附金付年賀はがき 3種



※ 57円/1枚

TOKYO 2020

2018年 お正月商品② 12月20日（水）販売開始予定

◎野老朝雄氏デザイン「組市松紋様」和小物【おちょこ】【豆皿】【折り紙】



◎JOC/JPC 公式ライセンス商品【タンブラー】【マグネット】【豆皿】【扇子】



TOKYO 2020

平昌2018冬季大会時商品

◎12月21日販売開始予定【アシックス】日本代表レプリカモデル／応援グッズ



- ・アウタージャケット
- ・トレーニングジャケット
- ・トレーニングパンツ
- ・バックパック
- ・Tシャツ
- ・フリースマフラータオル
- ・フリースブランケット
- ・フリースネックウォーマー
- ・フリースミトン

◎1月下旬販売開始予定 JOC/JPC関連商品：JAPANシリーズ



平昌2018冬季大会時 東京2020オフィシャルショップ

営業期間：2018年2月1日（木）～3月18日（日）予定

営業時間：11時00分～20時00分予定

営業内容：TOKYO2020公式ライセンス商品、JOC/JPC公式ライセンス商品

【渋谷】

東急百貨店渋谷駅東横店 西館2F

東京都渋谷区渋谷2-24-1



※2016年 Rio大会時

【銀座】

東急プラザ銀座 6F

東京都中央区銀座5-2-1



※2016年 Rio大会時

TOKYO 2020